

平成 28 年度 横浜国立大学校友会事業計画

1. 新入生向け事業

○新入生説明とイベント

- ・清陵祭に「校友会テント」設け、校友会活動の説明とイベント。
- ・入学式直後に保護者同席の場で、校友会会長から挨拶・校友会主旨説明。
- ・学部別に校友会の説明（入学式午後中心に、同窓会案内と並行して校友会案内を）
- ・校友会紹介パンフレット(入学手続案内に同封)。
 - *会費納入者には、「会費納入礼状+会員証同封」---3/20 入金迄を目安に
- ・校友会報誌送付（8 月を目安に今年度事業途中報告と今後の事業計画を保護者に報告）
- ・新入生会費未納者への再アプローチ（同上会報誌・振込用紙同封）

○キャリア教育支援

- ・1 年生前期社会人基礎力養成講座「まなび座プロジェクト」・・・主体的に考え取り組む姿勢を育成。卒業生が講師で支援。

2. 全学生対象の事業

○講演会

各学部と校友会との連携講演会---講師は学部提案をベースに各学部ごと計年 4 回

設立記念講演会---年 2 回。上記とあわせて年 6 回

ライフプランセミナー 2 回シリーズ（ライフプランとは・社会経済環境の変化/ライフプラン作成、生命保険・ローン・資産運用の基本）

注：設立記念講演会参加者アンケートで希望の多いため

○キャリア教育支援

- ・2 年生以上：グローバルビジネス・コミュニケーション講座；異文化理解とコミュニケーション 後期 2 単位、市村准教授担当
- ・3 年生以上：グローバル実践講座；各種業種の海外勤務者からの体験談をベースに、国の制度と国民性等も含めて実践的な知識、英語での授業も一部取り入れる。後期 2 単位 経済学部植村教授担当（全学部に開放）、コーディネータは関仁非常勤講師が担当

○留学モチベーションアップイベント

国際課が開催のインターナショナルウィークに連動して、留学体験者から体験談を

○コンテスト

- ・第 3 回アプリコンテスト支援
- ・サークルコンテスト・課外活動支援：グループワークコンテストを開催し、優れたイノベーションプランを表彰することで、モチベーションの向上を図る。就職活動に役立つように導く。

○課外活動支援

学生が活躍した課外活動等(全国規模の大会等)に対し、遠征費、奨励費等を支援。

3. 校友会会員どうしの交流促進

○ホームカミングデーの開催など横浜国立大学と会員及び会員相互の交流

- ・ホームカミングデー(HCD)

大学と共催、同窓会の協力を得て、校友会員との交流を活発化する意図で昨年同様、常盤祭初日(10 月 29 日(土))に同時開催する予定。

講演などのメインイベントの他に各学部、研究科主催によるイベントも実施。

常盤祭とも協力関係で、学生、保護者、卒業生、その家族、教職員との絆を深めていくべく活動を更に推進する工夫を加える。

注：設立記念講演会参加者アンケートで希望の多い、ライブコンサートも検討

○社会人の先輩と留学生・日本人の学生との交流会

前年度 11 月 20 日東京開催の学部横断での、留学生・日本人学生に、5 業種の若手卒業生のプレゼンと車座懇談会が好評（43 名参加）につき、年 2 回、東京と横浜で開催予定。人数の多さより関心の深い人たちが相互に文化・生活・考え方を知る気楽な会を継続的に開催していく。

○海外校友会支部の展開を検討

従来から国際課が窓口で、海外で活躍している卒業生の交流を図ってこられた、校友会としては、横浜国立大学の諸活動と連携（海外インターンシップ、留学相談など）をはかるための拠点として、現状の海外同窓会の現状を調査・相談して、目的や関係などネットワークの強化を検討していく。

○地域・職域校友会の展開を検討

既存の地域・職域同窓会や同窓会合同会合の実態を調査のうえ、校友会として、学部横断の主旨を活かして協力体制をとれるか検討を進める。立ち上げ検討中などの地域には情報面の支援などを提案していく。

4. 広報活動

○会報、ホームページによる情報提供

「横浜国立大学校友会会報」を発行し、校友会の活動や横浜国立大学の動向などについて会員の皆様にお届けする。また、活躍されている卒業生や在校生の紹介をとおして、会員相互の絆を深めていく。

ホームページでは、会員の皆様に随時情報発信を行い、校友会の認知、関心を高めていく。

○アプリコンテンツ向けHP、SNS、メルマガなど、校友会事業の周知、事業の充実に向けてプロジェクトで検討していく。

○校友会についての周知、理解、協力を得るために、広く意見をもとめて対応を検討していく。

5. 会員情報の管理

○会員システムの立ち上げ、登録・管理

まずは、入学生の校友会費納入者の登録から、漸次会員登録を進めていきます。

○会員証の発行・管理

校友会費納入者会員に会員証を発行。校友会への帰属意識を高め、イベント等への無償参加に利用など。